

## 令和7年度第2回岡山県地方独立行政法人評価委員会議事概要

- 1 日時 令和7年7月22日（火）10：00～11：00
- 2 場所 ピュアリティまきび3階「飛翔」
- 3 出席委員 萩原委員長、小田委員、戸田委員、秋山専門委員、桑原専門委員
- 4 議事  
公立大学法人岡山県立大学 第3期中期目標の期間における業務の実績に関する評価結果について
- 5 報告等  
年度計画及び年度評価の廃止に伴う対応について
- 6 発言要旨  
(1) 公立大学法人岡山県立大学 第3期中期目標の期間における業務の実績に関する評価結果について

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立図書館との連携について、もっとホームページ等で周知した方がよいと思う。</li> <li>・そうすることで双方の価値が向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を頂戴したので、そのように取り組みたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成について、TOEICの点数以外に、どのような教育を行っているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学では、TOEIC L&amp;R IP を共通教育科目としている。大学は、高校と比べ英語の授業回数が少ないため、特に1年次及び2年次に授業回数を増やすよう努めている。また、附属図書館に英語が学習できる教材を充実させている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話のような実践的な教育は行っているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学は、興味を持てば学習が進む性質を持っているので、外国の文化や習慣に触れ、興味を持ってもらうところから取り組んでいる。学生に対して行事を周知する仕掛けを工夫していきたいと考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEICを否定しているわけではなく、就職試験で重視している企業もあるので、それはそれで進めていってほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に英語に興味を持ってもらうため、海外に事業展開している企業にインターンシップを引き受けてもらうことも進めていただきたい。引き受けてくれる企業は多いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報工学部では、マレーシアマラッカ工科大学と連携し、現地の工場にインターンシップに行っている。</li> <li>・ドイツやスウェーデン、フィンランド、韓国などとも連携しており、年数回の訪問がある。そうした行事を通じて、学生にグローバルセンスを身に付けさせたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく1年次や2年次に英語を教えても、3年次や4年次に専門教育で英語から離れると力が落ちてしまう。4年間続けて英語力を維持する仕組みが必要で、卒業時にどれくらいの力があるかが大切だ。</li> </ul>	

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県が中期目標を定め、大学が中期計画を策定することになっているが、結局、指標が合格率や点数などになっており、ディプロマ・ポリシーとも乖離している。卒業時に身に付けて欲しい力としてコミュニケーション能力など様々なものがあるが、果たして、それらが身に付いているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方独立行政法人評価委員会ではなく、認証評価機関がディプロマ・ポリシーの評価を行っている。</li> <li>・ 毎年度、年度末に全学生に対してアンケートを行っているが、概ね自己評価では「ほぼ達成」という結果となっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価以外に客観的評価は行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状では、客観的評価は行っていない。</li> </ul>

(2) 年度計画及び年度評価の廃止に伴う対応について

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員としては、次回開催まで間が空くと状況が把握できないまま評価を行うことになるので、毎年度、報告してもらう方がありがたい。</li> <li>・ 1年ごとに評価するのも難しいのに、6年間で1度に評価するというのは、なかなか想像が付かない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重な機会なので、毎年度、委員の皆様からご意見をいただく場を設け、大学運営に生かしていきたいと考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までのような進め方ではなく、質疑応答形式で意見交換するのがよいと思う。</li> <li>・ 従来のやり方では事務的な負担が大きかったので、負担を軽減すべきである。</li> <li>・ 既存資料を流用し、テーマを決めて報告していただくのがよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのようなテーマで議論するかについては、大学と協議してまいりたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価を行う場合、形式に則った方法で行う必要があるが、意見交換はそうではないので、大学が、どのように外部の意見を役立てたいかという視点で行うのがよい。</li> <li>・ 大学側から当委員会をどのように役立てたいか要望があれば出していただければと思う。</li> <li>・ 専門的なことではなく、大学にどのような姿が求められるのかということであれば意見しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期的な観点から、大学のあり方、どのような教育をして、どのような機会を学生に与えるべきかについて、そのヒントになるようなご意見をいただければありがたい。</li> <li>・ 本学では、リカレント教育やグローバル化を重点的に進めることにしているので、それらの進捗状況を説明し、ご意見をいただければありがたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4期中期計画の成果指標について、【定量】と【定性】があるが、すべての項目について、【定量】を設けるべきだと思う。</li> <li>・ あらためて数値を設けるのもよい。そういったことも踏まえて、年に1回程度は、意見交換会を行うのがよいのではないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画を策定する際、客観的に評価できるよう【定量】を増やしたが、どうしても【定性】のみとなった項目もある。計画を進めていく中で、数値で測れるものがないか研究してまいりたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふるさと納税制度の項目もあるが、何か返礼品がないと寄附が増えないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふるさと納税は、県の税務課と連携して行っているのですが、県と相談したい。まだ周知が十分行き届いていないが、寄附者に大学の現状をお伝えできるよう取り組んでまいりたいと考えている。</li> </ul>

